

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ギア エス	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.054	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：GEAR S

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

比較対照ボール：GEAR

フレアーの幅 インチ

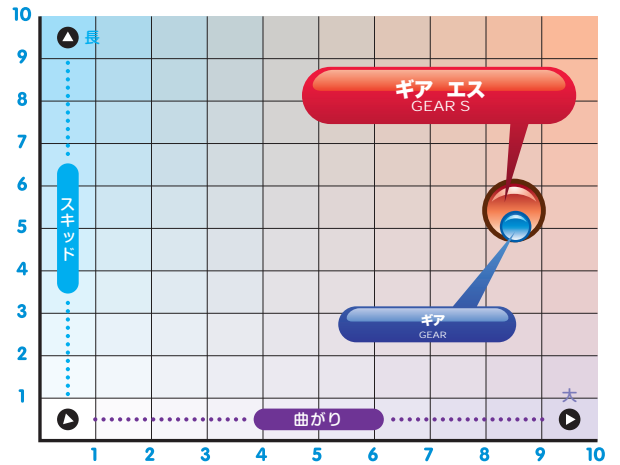
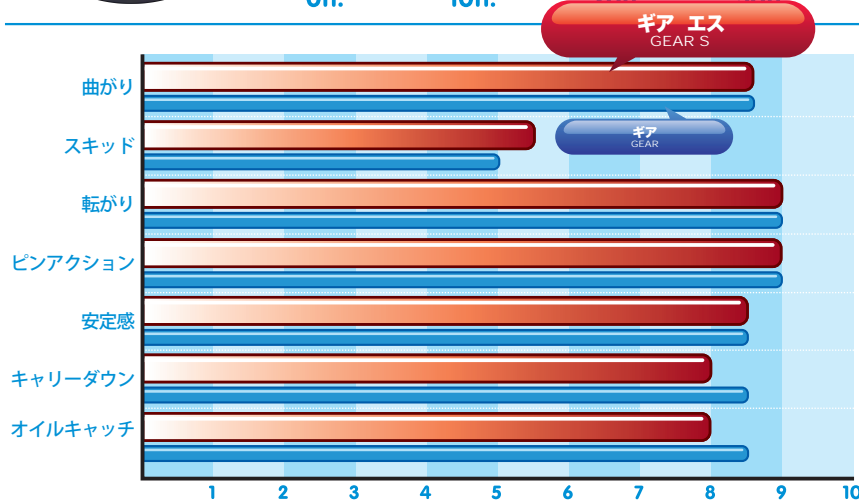
PAPからピンとの距離 **4in1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

2014年7月、ABSが900Global社代理店契約をしてから2年半弱の月日が経ち、数多くのボールが輩出されました。その中で一番初めに発売されたDREAMは安定したキャッチと柔らかいキレが日本のファンを魅了し、新生900Global社スタートを飾るに相応しいボールでした。各メーカーで多種多様なコンセプトのもと多くのボールが発売されますが、900Global社は同じCoverStockとCore Technologyを使い、配色だけを変更して発売する戦略を持っています。それは”同じものを発売する”ということではなく、”配色だけでPerformanceを変える”ということを表しています。今回紹介するGEAR Sは、DREAMと同Specである74 Response Pearl ReactiveとIdentity Asymmetric Coreとの組み合わせで、初代DREAMよりもややフリップ感を意識した性能に仕上がっています。比較は74 Response Hybrid CoverStockのGEARと行いましたが、スキッドで捉えたとGEAR S>DREAM>GEARとなり、曲りの大きさはGEAR>DREAM=GEAR Sとなります。ここでの注目はDREAMとGEAR Sの曲りの大きさと、スキッドが違っても曲りの大きさはほぼ等しくなるのは、それだけGEAR Sの奥での動きにメリハリ感があり、スキッドの長さを凌駕するBackendの動きがあるということを示します。私は900Global社のPearl素材は非常に実用性と利便性が高いと感じています。それは表面加工次第で幅広いコンディションに対応が可能に感じるからです。やや走りが強く感じてしまう時はほんの少し光沢を消すだけでスキッドを調整できますし、何よりBackendの動きを損なわずに調整が可能です。それをHybridで施工した場合、手前が強くなる分だけ奥の動きもやや緩慢に感じてしまうことがあります。ですのでこのGEAR Sは箱出しのままでも良いし、少しスキッドを止める加工も幅広いコンディション用にカスタマイズできるのもこのボールの利点とも言えるでしょう。

特記事項

初代DREAMよりもややスキッドが長く感じますが、Backendの動きを強調させているSpecです。自分流にカスタマイズできる幅広いコンディションに対応可能なボールです。